

令和6年度学校自己評価システムシート (県立三郷工業技術高等学校)

目指す学校像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する」
--------	---

重点目標	1 基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる 2 生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる 3 開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	6名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (1 月 1 6 日 現 在)		
年 度 目 標					年度評価 (1 月 1 6 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 教科指導において、「わかる授業の実践」を進めた結果、多くの生徒が授業内容を理解している。</p> <p>【課題】 基礎学力が身に付いていない生徒が多く入学している。引き続き家庭での学習習慣をつけさせる指導と、基礎学力の向上、専門知識と技術の確実な習得を行い、生徒の自信を高める必要がある。</p>	<p>① 授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。</p> <p>② 資格取得や、各種コンテスト、大会への積極参加。</p>	<p>① ICTを活用した授業や学力向上を促す取り組みを積極的に行う。</p> <p>② 専門学科指導の追求と課題研究の充実。</p>	<p>① 教科・学科の横断的な学びを実施することで生徒の学力向上が見られ、同時に生徒の授業への積極参加が見られたか。</p> <p>② 一人一台端末の積極活用がされたか。</p> <p>① 工業科の授業で「授業内容が身に付いた」という生徒の割合が各学科80%以上か。</p> <p>② 課題研究の生徒満足度90%以上か。</p> <p>① 資格取得やコンテストなどに取り組む生徒が多くいたか。</p> <p>① アンケートにおいて、資格指導が充実しているとの回答が80%以上か。</p>	<p>新学習指導要領改訂3年目となり能動的な授業も多く行われており生徒の授業への積極参加が見られる。端末活用も積極的に行われ、公開授業を通して教員の研修機会を確保している。専門教科の内容充実に検討の余地がある。</p> <p>① 教科内に限らず、教科間の情報共有を行うことで生徒一人一人に対して適切な指導を行えている。一人一台端末の公開授業を27回行うことで活用が促された。</p> <p>② 専門科目の「内容を理解できた」という割合は、M72.6%、R79.3%、E75.4%、T73.4%、C72%、全74.3%(昨年度M75.5%、R70.9%、E73.6%、T74.1%、C82.6%、全75.8%)、課題研究の満足度M95.8%、R100%、E96.1%、T88.6%、C73.5%、全88.9%(同81.4%)。</p> <p>資格やコンテスト参加への意欲は高い。</p> <p>① 「資格を取得したい」83.5%(同83.3%)、「積極的に取り組んだ」47.1%(同54.4%)。新たに取得した生徒数267人(1年144人、2年86人、3年37人)内国家資格取得数36名(昨年度1年161人、2年87人、3年37人全285人)1、2年生の取得率72.8%(同75.2%)</p> <p>② 「資格指導が充実している」79.5%(同77.0%)</p>	B	<p>一人一台端末やICT授業を行う教員は多い。授業方法について模索が続いている。公開授業を行うことで、教員同士の学びの場を増やし情報共有を引続き行っていく。義務教育現場を含め外部への見学も行いたい。</p> <p>学習指導が難しい生徒も増えている。専門高校として知識・技術を身につける指導を継続的に行っていく。</p>
2	<p>【現状】 生徒規範は守られている。大きな問題行動は見られない。進路指導も充実し、生徒の進路実現が達成されている。</p> <p>【課題】 引き続き、社会人基礎力の育成を目指し、組織的な生徒指導、進路指導を通し、集団の一員としての自覚と責任を高め、進路実現につなげる必要がある。</p>	<p>① 社会人基礎力の育成を目指す生徒指導の推進。</p> <p>② 生徒の進路実現へ向けた指導。</p>	<p>① 生徒の「セルフマネジメント能力」を高める生徒指導の推進。</p> <p>② 自転車安全講習会を実施、ヘルメットの着用を呼びかける。</p>	<p>① 基本的な生活習慣の確立、特に遅刻者数が減少したか。</p> <p>② 手帳を使った自己管理ができたか。</p> <p>① 講習会を実施できたか。安全指導を適切に行えたか。</p>	<p>社会人基礎力を目指す生徒指導や安全教育は積極的に行われた。ただし遅刻者数が増加へ転じている。年度当初は、1年生の自転車での軽微な事故が例年より多かった。</p> <p>① 遅刻者数は1、2学期合計806人(昨年度728件)「自己管理能力が高まった」の割合は89.2%(同79.3%)</p> <p>② 1年生への自転車安全指導伝達講習会を実施。ヘルメットの着用を呼びかけている。</p> <p>今年度はコース別に制度変更した完成年度である。生徒の進路実現へ向けた取り組みが行えている。</p> <p>① 2、3年生の「コース選択満足度」全体92.6%、大学コース85.4%。</p> <p>② 「自分の進路や人生について考える指導が十分に行われていたと思うか」90.2%、「進路指導は十分に行われている」91.7%(同89.5%)各学年において、適切な進路ガイダンスを実施。情報電子科ではインターンシップを実施。県「多様な働き方実践企業」職場体験ツアーへの参加を全生徒へ促した。その他企業見学や施設見学を実施。</p>	B	<p>手帳を使った自己管理を進めている。社会人基礎力を身につけさせる指導は継続して行う。基本的な生活習慣の改善は各家庭の協力が欠かせない。</p> <p>変化が激しい時代を生き抜くため、自らが考え、判断し行動できることが大切である。多様な社会に対応できる能力を育成する指導は今後も大切である。</p>
3	<p>【現状】 本校の魅力を発信しきれていない。募集定員が割れている学科が多くある。</p> <p>【課題】 本校の特色・魅力・成果を積極的に情報発信する機会を増やす必要がある。外部連携を行いつつ、開かれた学校づくりに取り組む。</p>	<p>① 積極的に情報発信し説明会等を充実させ、志願者を増加させる。</p> <p>② 企業や地域、小中学校、各種機関等との連携強化。</p>	<p>① 本校の特色・魅力・成果について積極的に情報を発信し生徒募集につなげる。</p> <p>② 各種説明会や学校見学会、出前授業、体験入学等をととしたPR活動の実施。</p> <p>① 外部連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを行う。</p>	<p>① 情報発信の機会を多く設ける。</p> <p>② 生徒募集において、各科志願倍率1.0倍を確保する。</p> <p>① 地元小中学校との連携回数の増加</p> <p>② 本校で行う各種広報行事における参加者数増加。</p> <p>① 様々な機会を捉え外部連携を行うことができたか。</p>	<p>インスタグラムを開始し日頃の生徒の様子を配信した。配信アプリの積極活用を行った。</p> <p>① ホームページの更新回数は274回(12/27現在)(昨年度199回)、1月12日現在の志願倍率M科0.72、R科0.38、E科0.87、T科0.75、C科0.70倍(昨年度M科0.77、R科0.43、E科0.64、T科0.65、C科0.98倍)各科目1倍を下回っている。</p> <p>② 中学校への出前授業を2回、彦成中まるごと体験、立花小との連携授業など実施。学校説明会、学科説明会、体験部活動、体験授業を実施し、延べ965人(内中学生516人)が参加した。(同888人内中学生468人)、中学校訪問近隣約30校へ実施。中学校主催の説明会2校へ参加。</p> <p>地域や、小中学校など連携は概ね達成できた。</p> <p>① 三郷市、三郷市教育委員会と連携し、年次研修の実施や、「GIGAプロジェクト」へ教員の派遣ができた。また、NPO三郷やIKEA新三郷店と連携し、地域の子供たち向けのイベントを実施した。県教委が連携協定を締結している埼玉経済6団体や、埼玉新聞事業社、Nack5&アクサ生命、城西大学、東洋大学、日本工業大学とイベントや課題研究等の指導支援、共同で授業するなど、外部機関の活用を行った。</p>	B	<p>生徒アンケートより「本校を知るきっかけ」は1中学校の先生45.5%2保護者38.3%3ネット検索24.3%「受験校選択時HPを参考にした」67.1%である。引続き情報発信の強化が必要である。</p> <p>生徒の育成には外部連携が欠かせない。引続き行っていく。</p>

学校関係者評価	実施日	令和7年1月24日
---------	-----	-----------

学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定はじめ多く資格受験料が高額である。何らかの支援が必要。 ・英検準2級取得は高校卒業の指標となる。 ・資格指導は特定の教員への負担となることが懸念される。 ・一人一台タブレット端末は、簡単に調べられること、データを無くさないなどメリットがある。しかし紙へ書き込むことも重要であり、書くことで覚えやすい。 ・保護者として、配信メールで情報がされていることに感謝している。 ・欠席連絡を配信メールで出来ないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップなど企業体験について三郷市商工会もできる限りの相談に応じたい。学校、企業ともにメリットがあると良い。 ・自己管理能力向上で、中学でも手帳を使った活動が行われ始めている。 ・8時30分登校は意識の習慣化ができる。就職したときを考えると高校生の内に身につけられることは良い。 ・進路行事は、多くの企業から話が開けて、三工技は手厚い指導が行われている。ただ、大学については少ないので多くした方が良い。 ・就職者が多いためか、スーツ着こなし、化粧講座などの行事があり、とても良い。 ・子ども自身が進路を考える機会が多くて良い。少しずつ社会人へ成長している。 ・身だしなみ指導など、学年が上がるにつれ優しくなった。身だしなみの基準から本人の努力を見るようになった。 ・スマホ使用など現在の校則を緩めると、規範意識が悪化することが懸念され余計に規制されるのではないかと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に高校が行っている体験授業より、まるごと体験は生徒へ好評であり、志願者が増える。小中教員向け進路指導見学会を行った際も、三工技の授業や施設に驚いていた。実際に体験することや見ることは効果がある。小中学校との連携は必要である。 ・ららぽーと新三郷に三郷市観光協会が情報発信している場所がある。そこの活用も良い。 ・高校生はインスタをあまり見ないが、保護者は学校の様子が分かってよい。 ・三工技は学科の違いがよくわからない。似たような内容であり差別化が図られていない。受験生も迷うと思う。